



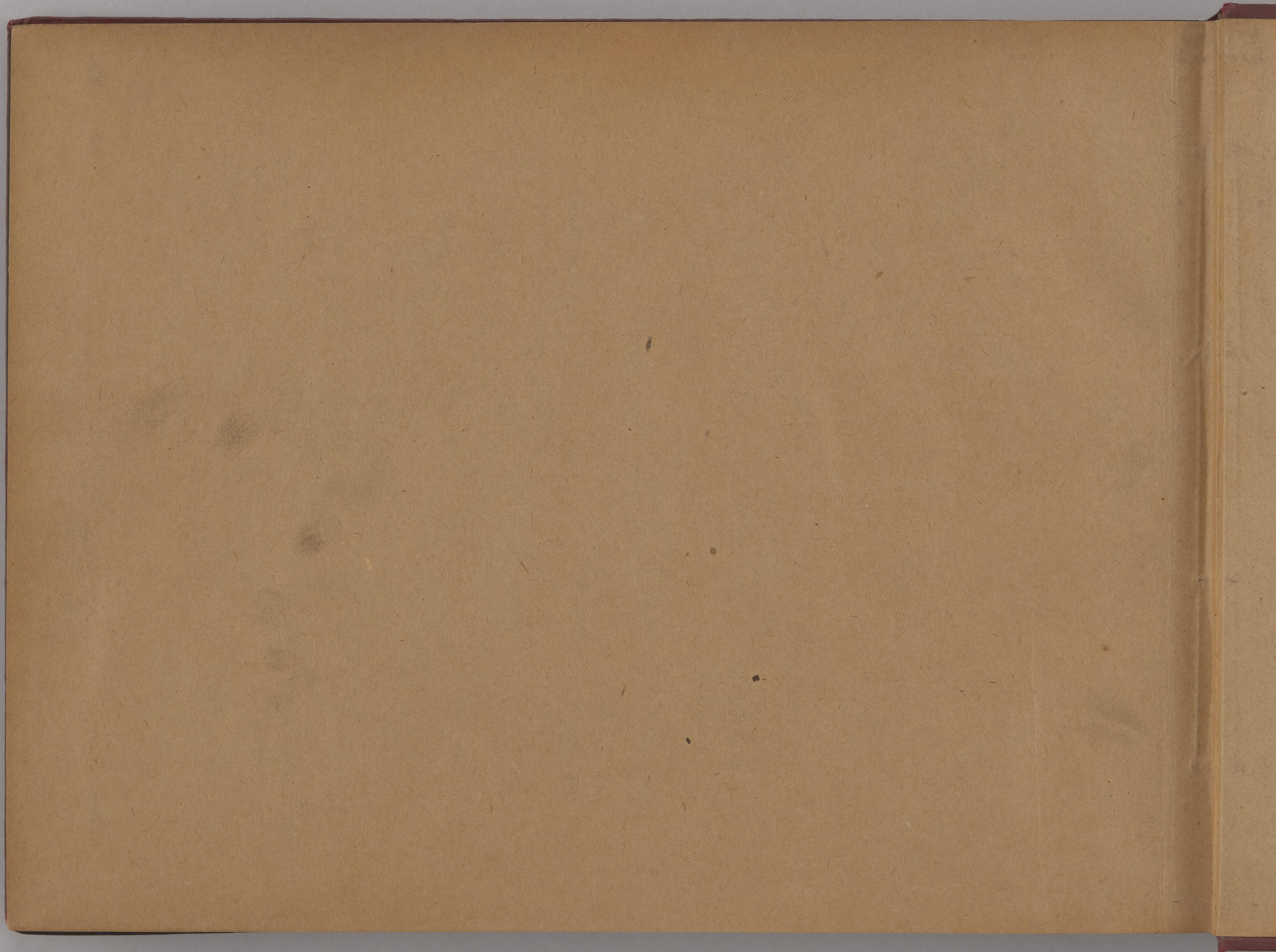
1201100596047

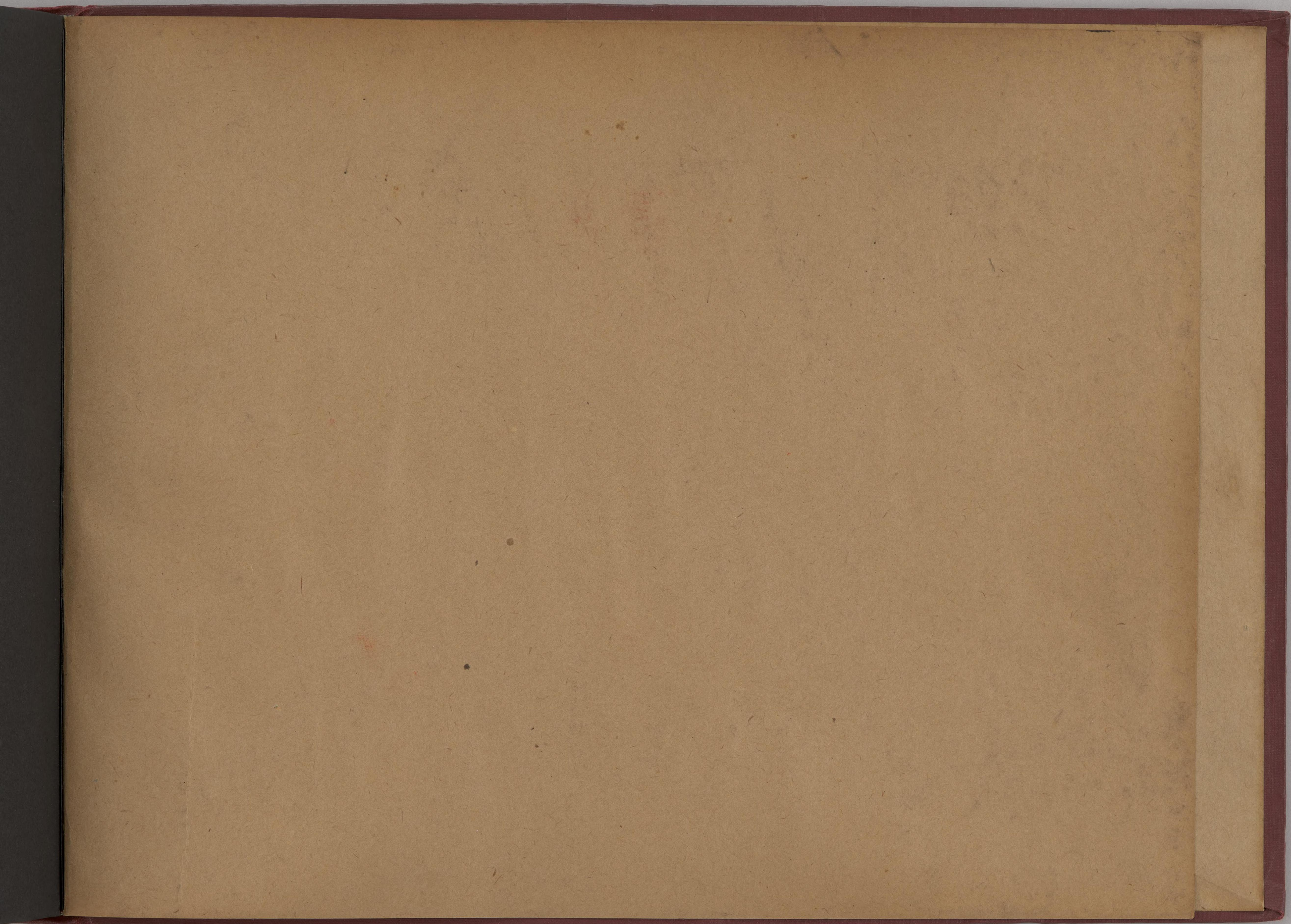


禁電子式複写











同盟寫眞

内地 ニューズ

第一號

◎米内百武兩大將親任式

(東京)十二年二月一日

天皇陛下には一日午前十時宮中鳳凰間に出御
海軍大將に進級の米内海相、百武横須賀鎮守
府司令長官に對し林首相侍立のもとに親任式
を行はせられ陛下より親任の勅語を賜り首相
より左記官記を授與された

海軍中將

從三位勳一等功四級 米内光政

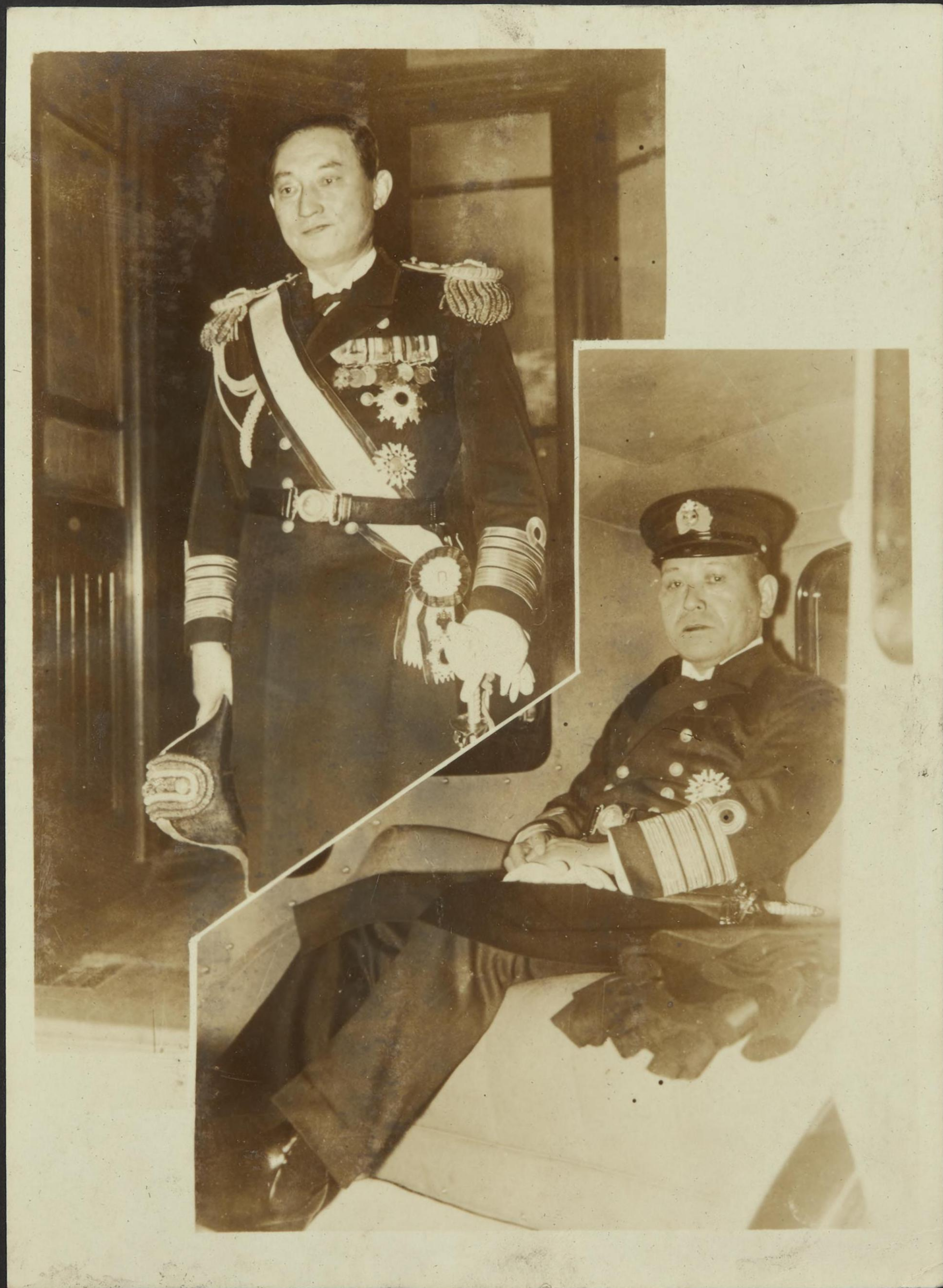
海軍中將

正四位勳一等功五級 百武源吾

任海軍大將(各通)

寫眞は

一、米内大將(上)と百武大將(下)



同盟寫眞

内地ニユース

第二號

◎「神風」號の命名、出發式

(東京)十二年四月一日

亞歐を結ぶ二萬五千キロ征空の壯途につく「神風」號晴れの命名並に出發式は一日午前十一時半から畏くも東久邇宮殿下の台臨を仰ぎ羽田飛行場に於いて朝野各方面の諸名士航空關係者及び一般歡送市民一萬數千名參列盛大に行はれた寫眞は

一、東久邇宮殿下より上野朝日社長命名書御下賜



同盟通信、ウインド通信男子

四月二日発行

集信省費表

桑港(RCA)ニ東京(集信省)向

日米無線電送実験写真

写真説明

◎ 海上陸直前の陸名代官

向妃両殿下

向う二おは清出迎の市長代理、

ベネツト氏、向う二左はカナダ

總督代理、バルアロビンガ氏

◎ バンクーバーへ海上陸のカーネ

を印せらるゝ清名代官、向妃

両殿下。



同盟寫眞 内地ニユリス 第一號

◎清水、板垣兩中將以下賜謁

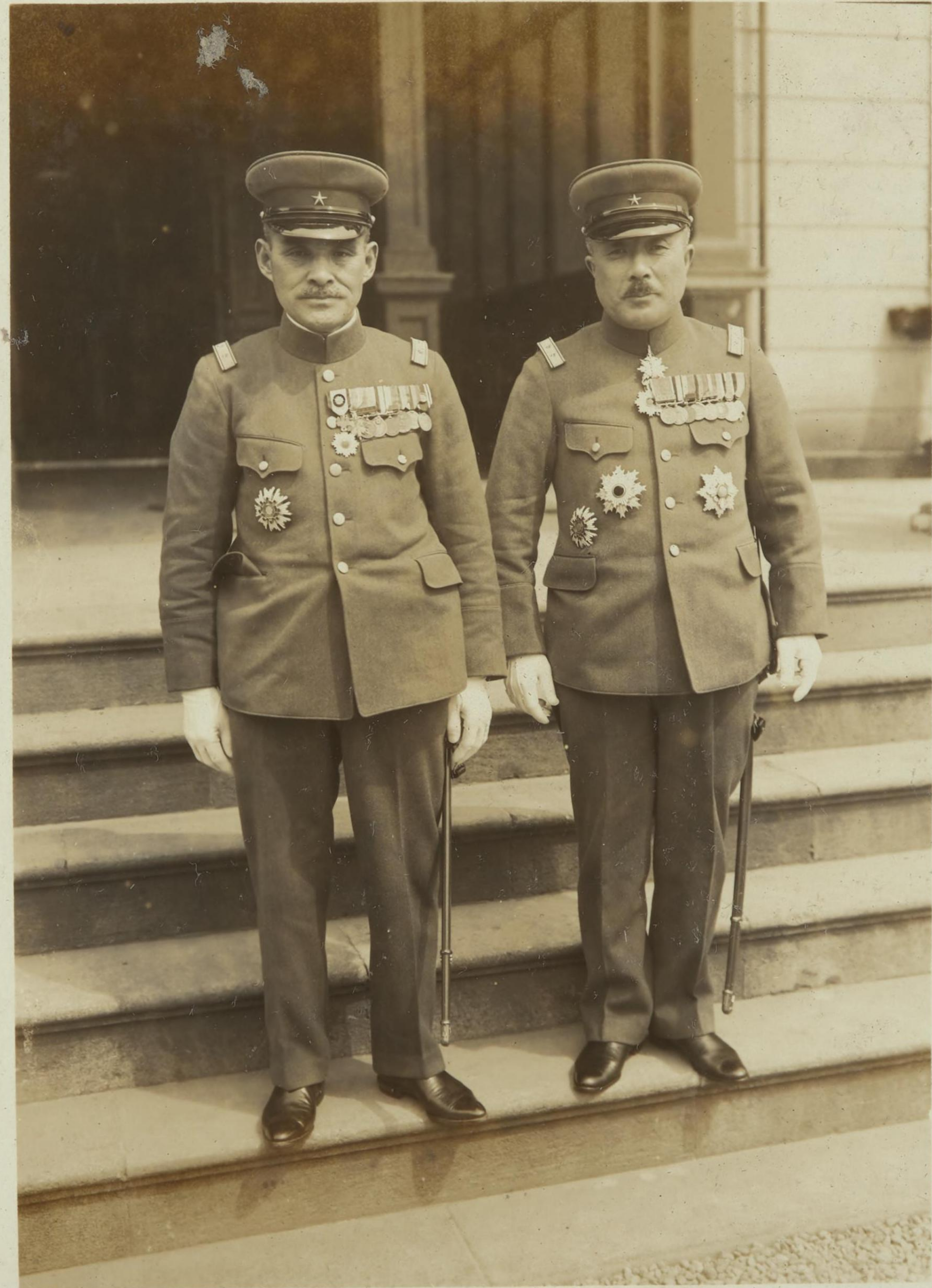
(東京)十二年四月二日

滿洲警備に赫々たる武勳を樹てて凱旋參謀本部附に轉補した前第十二師團長清水貴重中將は關東軍參謀長から第五師團長に榮轉した板垣征四郎中將外七名と共に二日午前十一時二十分參内宮中表御座所に於いて天皇陛下に拜謁仰付けられ兩中將は夫々在滿中の軍狀を奏上、畏くも種々御慰勞の御言葉を賜つた、終つて清水中將に對しては別殿に於いて午餐を賜はり一同恐懼して宮城を退出した。

寫眞は

一、板垣中將(右)と清水中將(左)

(於參謀本部玄關)



五洲通字の長ニテトク

十二年四月三日

日満慶びの契り
津傑氏浩姫婿の結婚式

滿州國皇帝陛下御弟君津傑氏と嵯峨
侯爵令孫浩姫との結婚式は今日神武天皇
祭の佳節をトして盛大に行はれし。式場
九段の軍人会館には本庄繁大將夫妻の
媒妁に依る輝やサーキ、新郎と大和撫子の
新婦とが干代を契る三献玉の式典が靖
神社加茂宮司の手によって厳を以て初めら
れ参列の滿州國皇帝勅使、賢宮内大臣
の勅語捧讀あり式を終り午後六時あり
会館に於て中台臨の竹田宮、今把兩殿
下を初め奉り林首相以下全閣僚等日
傍多数名と四百五十名参列の下に盛
大な披露宴が催されし。

字真は、新印・新婦



國語寫真 二五二之 昭和十三年四月三日

東京市内小學校教員會は四月三日の
神武天皇祭の佳日に於て全國小學校
教員に御親交を賜つた為三週年記
念に午前九時半から約一万五千名
皇城前に参列 牛塚東京市長 皇
府和事等も参列し吾が代存唱 皇城
在奉拜の後小學校教員に賜つた勅語を
館和事か捧讀し市長の恭声下万
才在三唱の敬告一也



日盟禮

真真三ノ六

第二号

御西親陛下の御許に

お樂しい半日

皇太子殿下御参内

(東京)四月三日

皇太子殿下には三日神武天皇祭のよき日石川傳
育官伊地知御養育掛以下側近等供奉申
上りて午前十一時略式自動車南簿にて東京殿
御所御前宮城に御参内天皇皇太后陛下
御膝下に御坐しく過りせられ午後四時宮
城御出門還啓あらせられた。

真真は東京殿御所前と謹真



同郷通信

眞直ニユース

中四号

栗島すみ子送別會

(東京)四月四日

十七年の永銀幕生活から引退することにした
心した銀幕の女王栗島すみ子とを社會に送
り出す會が四月四日十時三十分から歌舞伎座別
館催へられた社長以下田中絹代川崎弘子
八雲理恵子高松早苗高峰秀子飯田蝶子等
松竹女優の連名を呼ぶお岩の祐吉上山草人等首
がらみの芳優其他約三百名が出席し下
で冬々御手紙のまのまの情あつく賑やかであ
る。すみ子と送別すみ子とは名残り惜しい銀幕
生活を清算せしむるべく自由な氣持で藝術
に精進したいと思ひ、引退を決心した次第です
と挨拶して午後二時すぎ賑やかな引退送別會
を開いた。眞直は左から高峰秀子高松早
苗川崎弘子八雲理恵子栗島すみ子塚本虎次



本館
新撰
島民
会
念
撮
影
上
(表
面
三
回)

同盟寫眞

内地ニユース

第一號

◎民政黨聯合大會

(東京)十二年四月五日

民政黨は政戦の首途に當り結束を強固にし併せて黨の態度を明かにする爲め五日午前十時より上野精養軒に於て所屬貴族院議員並に前代議士と評議員との聯合會を開き町田總裁をはじめ二百餘名出席、劈頭君ヶ代合唱の後永井幹事長開會の挨拶を述べ會長に小泉又次郎氏を推して議事に入り俵孫一氏の發議により黨役員選舉は總選舉後まで延期することに決し續いて町田總裁起つて今回の解散は非立憲極まる暴舉でその非違を許すべからずと斷じて現内閣糾弾の演説を試みて黨員を激勵し終つて櫻内幸雄氏の發聲により兩陛下の萬歳を三唱して正午閉會引續き町田總裁の招待會に臨み總裁の挨拶、富田前議長の謝辭あり續いて有志演説に現内閣打倒の氣勢を擧げ盛會程に午後一時過ぎ散會した。

寫眞は

一、町田總裁の演説



同盟寫眞

内地ニユース

第三號

◎政府の選舉方針を明示

|| 地方長官會議開かる ||

(東京) 十二年四月五日

時局の正しき認識を強調して第七十議會を解散した政府は總選舉に臨む政府の方針を指示するため五日午前九時より永田町首相官邸に於いて地方長官會議を開催、政府側より

林首相以下各閣僚(結城藏相は旅行のため缺席)大橋書記官長、川越法制局長官、篠原内務次官並に各關係官

地方長官側より

池田北海道長官、館東京府知事を始め各地方長官並に關係官出席

先づ林首相より解散の理由及び政黨の反省に基づく議會の正しい運営を期待する政府の態度に關する訓示あり次いで鹽野法相は選舉取締に關する訓示を行つた。

寫眞は

一、林首相の訓示



同盟寫眞

内地ニユース

第一號

◎櫻花咲き誇る大宮御所に

||三陛下御歡談||

(東京)十二年四月六日

天皇皇后兩陛下には六日午前十一時十分御揃ひにて松平宮相、百武侍從長、竹屋女官長以下を從へさせられ略式自動車鹵簿にて宮城御出門、御久方振りに大宮御所に行幸啓あらせられた、御待ち兼ねの皇太后陛下と御對面御挨拶を交はさせられ三陛下御揃ひにて午餐を召され今を盛りと咲き誇る御苑の櫻を賞でさせられつゝ皇太子殿下を始め皇子様方の御日常など御歡談の裡に和やかな春の午后を過ごさせられ午後三時半兩陛下には大宮御所御出門宮城に還幸啓あらせられた。
御寫眞は

一、赤坂見付御通過



同盟寫眞

内地ニュース

第二號

◎陸軍恆例の師團長會議

(東京)十二年四月六日

陸軍恆例の師團長會議は六日午前九時陸軍省第一會議室に開催軍團側より小磯朝鮮、烟臺灣兩軍司令官以下各師團長、留守司令官、徳川航空兵團長、陸軍側より杉山陸相以下關係官其他中央各機關より今井參謀次長、香月教育總監部長其他列席、杉山陸相より一場の訓示あつて後梅津次官より現下時局並に國際軍備の情況についての口演、阿南人事局長より國軍幹部の育成、山脇整備局長より戰時資源について、小泉醫務局長より壯丁體格の現状についてそれぞれ説明あり同十時四十分會議を終了、一同打揃つて林首相招待の午餐會に臨み更に午後一時半より陸相官邸において杉山陸相と各軍團長の重要懇談並に梅津次官、その他との懇談が行はれ午後四時會議第一日を終つた。

寫眞は

一、杉山陸相の訓示



一
松山陸軍の訓示

同盟寫眞

内地ニユース

第四號

◎花ぐもりの都大路

法悦に酔ふ花祭前日祭

(東京) 十二年四月七日

明日の花まつりを前に七日早朝から賑やかな前日祭が始つた、午前七時半淺草公園花祭會本部に集つた坊さんや學生等約百五十名がインド僧や山伏の姿思ひ／＼に花御輿を中心に行列を作つて花ぐもりの都大路に練りだした、ホラ貝を吹く修驗道者、花皿を捧げ持ったインド装の女連、善男善女の行列は上野日本橋から正午には銀座に、午後は新宿まで自動車で行つて二時半から新宿三越で宵祭りを行つて八日は午前十時から日比谷大音樂堂で六疊敷もある紙芝居、午
后一時から灌佛會を盛大に催す。

寫眞は

一、銀座を練る花祭行列



同盟寫眞

内地ニルル

第一號

◎後醍醐天皇御木像完成

|| 鶴見總持寺に奉安 ||

(東京) 十二年四月七日

後醍醐天皇六百年御遠忌は來る十日から二週間
に亘り鶴見總持寺に於て盛大に舉行されるが先
に二十萬圓を投じて造營した御靈殿に奉安する
天皇の御木像は巨匠佐々木素雲氏が約一ヶ年
に亘つて謹作中のところ七日漸く完成、直ちに
御靈殿に奉安されることになつた。

寫眞は

一、御靈殿(上)と御木像



同盟寫眞

内地ニユル

第一號

◎順宮様女子學習院御入學

Ⅱ八日から御通學Ⅱ

(東京)十二年四月八日

去月廿九日姉宮様方の在はす吳竹寮に移らせられた順宮様には既に御學齡にあらせられるので八日中期二年に御進級の姉宮照宮様、前期二年に御進級の孝宮様と御揃ひで制服の御可愛いらしい水兵服を召され吳竹寮御車寄で記念御撮影の後御三方御睦まじく自動車に召され藤井御養育掛長、塘、名取兩御養育掛以下御供申上げて午前七時五十分吳竹寮御發、學習院へ成らせられた、一年南組に御編入の順宮様には院長室にて長屋院長から教學聖訓を受けさせられ八時半より入學式並に始業式に御參列、擔任の奥山、館兩教授の御案内にて教室に入らせられはじめて御學友と共に教授を受けさせられて十時過ぎ再び兩姉宮様とお揃ひで御歸館になつた。

御寫眞は

一、御通學姿の順宮様

Ⅱ宮内省御貸下Ⅱ



|| 宮内省御貸下 ||

同盟寫眞

内地ニユース

第二號

◎林首相、近衛公訪問

(東京)十二年四月八日

政黨に時局認識なしとして解散を斷行した林首相は愈々政府独自の政策を決定して國民に信任を問ふの決意をなし六日は平沼樞府議長を訪問重要會談を遂げたが、八日は午前八時五十分永田町の私邸に貴族院議長近衛文相公を訪問

一、議會を解散して政黨の認識を改め、議會の刷新を計る決意をなし解散を斷行した理由

一、今後の政局に處する決意

一、政府の今後實行せんとする政策大綱

詳細に説明を求め、近衛公の意見を聴取した後目下缺員となつてゐる文部、拓務、鐵道の三大臣の補充問題について隔意なき意見の交換を爲した。

寫眞は

一、近衛公訪問の林首相



◎春と秋との季節の交驛
南米との無線通話式

(東京) 十二年四月九日

地球の裏と表一萬八千キロを隔てた南米と十日から肉聲が交換されることになつり、わが國と南米諸國とはこの無線電話を通じて益々國交の親善を加へることになつたが業務開始に先立ち九日午前八時からわが國とアルゼンチン國の遞信、外務、民間關係者に依つて記念祝賀通話式が行はれた、先づ兒玉遞相からアルゼンチンのヤステイロ内務大臣に呼びかけ「日本は春でいま櫻が満開です」と傳へれば「こちは秋晴れた夕方で空がアルゼンチンの旗の様に澄んでゐます」萬里を隔て、春と秋の季節の聲が一瞬に交驛される次で兒玉遞相のメツセーヂ、カステイル内務大臣の挨拶、佐藤外相とラマス外相の通話、平澤遞信省電務局長とドミンゲス通信局長其他の通話があつて同三十五分良好な成績のうちに終了した。

寫眞は

一、向つて左から兒玉遞相、佐藤外相、吉澤米國局長、平澤電務局長、モンテネグロ亞國代理大使



ちに終了した。
寫眞は
一、向つて左から兒玉遞相、佐藤外相、吉澤米
國局長、平澤電務局長、モンテネグロ亞國代理大使

同盟寫眞

内地ニユース

第一號

◎各閣僚に御陪食

(東京)十二年四月九日

天皇陛下には閣僚御優遇の長き思召に依り、一日正午宮中豊明殿に林首相、杉山、米内陸海軍大臣、結城藏相以下各閣僚を召され高松宮殿下御臨席、湯淺内府、松平宮相其他宮内官等にも陪席仰付けられ御陪食を賜はつた終つて千種間に於て茶菓を賜はつたが畏くも陛下には林首相以下各閣僚に對し種々有難き御言葉を賜はり二時近く入御、一同光榮に感激して御前を退下した。

寫眞は

一、参内の林首相



◎御慈愛こもるお心づきの御言葉

|| 兩陛下東宮假御所行幸啓 ||

(東京) 十二年四月十日

天皇、皇后兩陛下には十日午前十一時百武侍従長以下を従へさせられ略式自動車鹵簿にて宮城御出門、皇太子殿下御待ち兼ねの東宮假御所に入らせられ、去月廿五日御兩親陛下の御膝許より移り住はせられてより約二週間、益々御健勝にわたらせられる皇太子殿下が石川傳育官以下御附添ひで御出迎へあそばされたのにいとも御満足の御様子にて石川傳育官、廣幡皇宮太夫等の御案内にて皇太子殿下の御居室、御遊戯室など御所内を隈なく御覽あそばされ兩陛下とも御養育上の事どもにつき何かと御心付のお言葉あり御慈愛の程畏く拜された、かくて兩陛下には皇太子様を御中心に樂しく午登させられ尙ほ暫しの御團欒あらせられた後午後三時卅分御名殘惜しみ給ふ皇太子殿下にお別れを告げさせられ天機並に御機嫌いとうるわしく宮城に還幸啓あらせられた。

御寫眞は

一、東宮假御所東御門にて謹寫



御寫眞は
一、東宮假御所東御門にて謹寫

同盟寫眞

内地ニユース

第二號

◎娘道成寺清姫の羽子板供養

(東京)十二年四月十日

豊國以來羽子板押繪にその艶麗さを稱へられて
來た娘道成寺、清姫の羽子板供養をしようと云
ふ計畫が昨年六月以來羽子板業者や梨園、畫壇
の有志の間で進められてゐたがこの程見事な供
養額が完成、近く東京押繪羽子板組合から清姫
由縁の和歌山縣日高郡鐘卷天音寺山道成寺に奉
納する、額は五尺に六尺の扁額で中央に長さ五
尺横二尺二寸の娘道成寺の羽子板に臨風の「散
る花に諸行無常や鐘供養」と笛畝の櫻花を配し
たものである。

寫眞は

一、見事な供養額

同盟通信

真真三二六

第二号

林首相以下各大臣西下

(康宗)四月十一日

林首相は杉山陸相、兒玉連相とともに伊勢神
宮、桃山御陵に参拜した。十一日午後十時十分
東京駅發西下河原田内相、監野法相は教諭
神宮、禮原神宮、教傍山陵、桃山御陵等に親任
奉告のため十一日午前八時五十分東京駅發西下
した。

真真 左の首相、連相、陸相、内相、法相
東京駅にて。



同題通信

眞真三三ノ文

第三号ノ

昭憲皇太后祭

賑ふ明治神宮

(東京)四月十一日

十一日は昭憲皇太后祭。明治神宮では午前八時
有馬宮司以下神職楽師参進。府下各々学校
女子青年團聯合會代表者参列。もと厳か
な祭典を舉げた。舊御苑では午前九時から午後
四時まで斜観が許され、美は「春光の下見事」に
咲き匂ふ櫻花の蔭を徘徊する人々の群は賑はつた。
眞真は昭憲皇太后祭神職の参進



同盟寫眞

内地ニユース

第一號

◎高野山に勅額を下賜

(東京)十二年四月十二日

畏き邊では高野山金剛峯寺の弘法大師一千百
年遠忌に際し記念事業として建立した根本大
堂がこの程完成したるに對し勅額下賜の御沙
汰あり管長高岡大僧正は草繫總務以下を從へ
十二日午前十時半參内同十一時東一の間に於
いて松平宮相より勅額を拜受、光榮に感激し
つゝ、退下もた。

寫眞は

一、退下の一行



同盟寫眞 海外ニュース 十二年四月十二日

◎軍務生活四十年記念
のブロンベルグ元帥

(ヘルリン)發同盟

軍務生活に入つて滿四十年を迎へた獨逸國防相
ブロンベルグ元帥は去る三月十三日陸軍省に於
いてヒットラー總統を初め軍主腦部より祝賀さ
れた。

寫眞は

(1) 祝詞を述べるヒットラー總統(左)とブロン
ベルグ元帥(右) 右側前列左よりフリツシユ
陸軍大將、航空相ゲツベルス及海相レーデル
海軍大將

(2) 可愛らしい令孫のお祝ひを受けるブロンベル
グ元帥



◎日本へ行きたくありません
意識を回復したイヴオンヌ

(パリ) 發四月十三日

武林無想庵氏の愛嬢イヴオンヌさんは去る七日
再度服毒自殺を圖つたが其後母親文子さんの手
厚い看護に漸く意識を回復した、但しまだ時々
「死にたい、死にたい」と口走しつてゐる十二
日故國の父無想庵氏からパリ時代の親友文豪エ
ミール・ゾラの姪ルブロン・ゾラ夫人に宛て「
イヴオンヌ引取りにパリへ行く、それまでイヴ
オンヌの保護を乞ふ」といふ父子の愛情切々た
る電報が届いたが彼女は「日本へなんか行きた
くない」と駄々をこねてゐると云ふ。異國に
生れ、娘十八、戀を知る頃となつて毒を仰ぐに
至つた悲しい運命の子に一掬の涙なきを得ない。
寫眞は去る三月末在留邦人の集りに上演したピ
エエル・ロチイ氏のオペラ「お菊さん」マダム
クリザンテエム」の扮装でカルチエ・ラタン街
を散歩してゐる武林文子さんとイヴオンヌさん
等のスナップ。寫眞は、向つて左から、イヴオンヌさん、岡本
某氏、文子さん



等のスナツプー。
寫眞は、向つて左から、イヴオンヌさん、岡本
某氏、文子さん

同盟寫眞

内地ニユース

第六號

◎東伏見邦英伯の御慶事

御令室は龜井伯二女保子姫

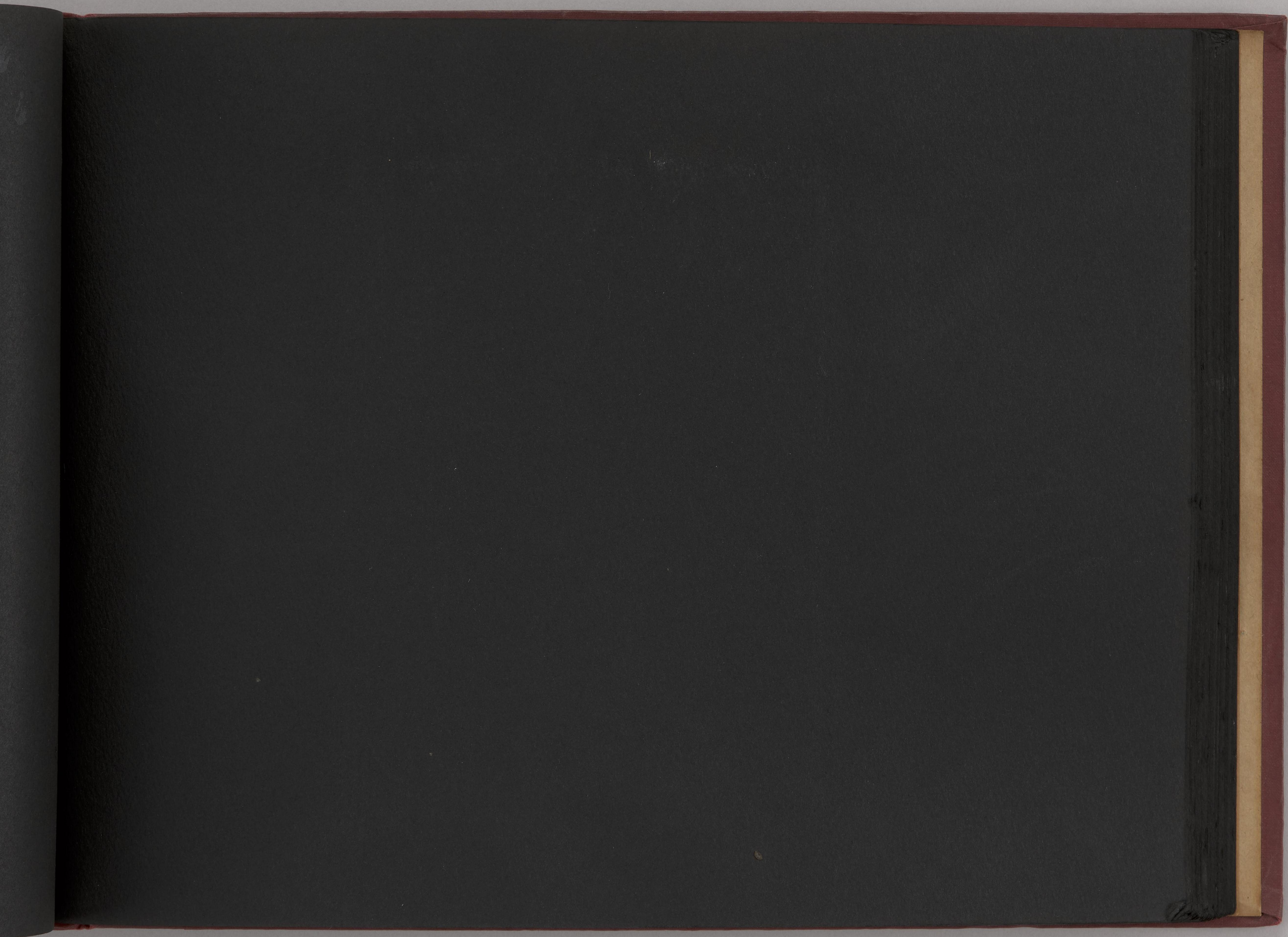
(東京)十二年四月十三日

東伏見邦英伯には島津公の御媒酌により來る五月五日の吉日をトし舊石見津和野藩主龜井茲常伯二女保子姫(二〇)と御婚儀を擧げさせらるることゝ御治定相成つた。保子姫は女子學習院出の才媛である

寫眞は

一、龜井保子姫







同盟寫眞

内地ニユース

第一號

◎意氣天を衝く社大關東大會

(東京)十二年四月十四日

林内閣並に既成勢力打倒の旗幟も華々しく今回の總選舉戦に於ける政黨大會のトップを切つた社會大衆黨關東大會は十四日午前十一時から日比谷公會堂に開催、聴衆は午前八時頃より續々押しかけ公會堂附近に長蛇の列をなし社大黨未曾有の盛況を呈し大衆層に新興勢力饒望の機運が漲つてゐるの狀が觀取される、滿堂溢るゝばかりの聴衆を前に映畫「憲政の殿堂」を上映、終つて黨首安部磯雄氏を座長に推し宣言並に決議の朗讀あり續いて大演說會に移つた。

寫眞は

一、安部磯雄氏の熱辯



全
部
在
於
此
一
季
節

同盟寫眞

内地ニユース

第五號

◎壯烈なる空中戦

(濱松) 十二年四月十五日

十四日午后三時五十分濱松市外三方ヶ原上空で
壯烈な空中戦闘を行つた、防禦軍九一式戦闘
十五機、攻撃軍新鋭九五式戦闘機九機、九三式
軽爆十四機は入り亂れて空中戦を展開、空の怪
物九三式重爆十二機の一齊一彈投下等の妙技を
示した。

寫眞は

一、重爆機の爆彈投下



◎世界の巨星を乗せて淺間丸入港

(横濱)十二年四月十五日

郵船淺間丸は内外の船客七百十四名を乗せて十五日午后春雨に煙る横濱へ入港した、同船では世界の不幸な人々に限りなき光明を與へる米國の産んだ奇蹟「三重苦の聖女」ヘレンケラー女史が秘書ポリ・トムソン嬢はじめ第十四回オリムピック大會東京招致に絶大の後援を與へた米國オリムピック國際委員ガランド氏、デンマークのアインシュタインと稱される原子論、量子論の世界的泰斗ニールス・ヘンリク・ボーア博士、日智貿易促進の爲め日本商工會議所の招請で來朝したチリ商業使節一行十二名其他社會事業運動、經濟科學のそれぞれ世界の巨星を網羅した顔觸れて今春隨一の華やかな入港振りだ。

寫眞は

(1)ヘレン・ケラー女史(左)と秘書トムソン嬢(右) (2)ガランド氏夫妻令嬢令息夫妻 (3)ボーア博士 (4)チリ使節(中央女性の左が團長マキシムリアー氏)



◎内外の臣僚を召され
晴れの觀櫻御會

(東京)十二年四月十六日

宮中觀櫻會は春酣の十六日名花咲き誇る新宿御苑に於て天皇皇后兩陛下行幸啓のもとに内外の臣僚約八千余を召されいと晴れやかに催させられた、昨年は二、二六事件の爲又昭和十年は雨天の爲御會は御取り止めになつたが今年は三年振の御盛儀である、清らかな薄紅に咲き出た一葉を始め普賢象、關山等數百株の八重の名花、散り初めた染井、吉野、山櫻の花吹雪、廣芝の新緑に映えて美事に咲き匂ふ御苑を兩陛下には櫻花の下を御道筋に堵列の諸員に御會釋を賜ひつゝ、玉歩を運ばせられ、名花を御觀賞あらせられつゝ、假御茶屋に着御陸海軍々樂隊の奏樂の裡に一同と共に茶菓を召され、天機並に御機嫌殊のほか麗はしく拜された
寫眞は

一、兩陛下行幸啓

一、參入の召者



同盟寫眞

内地ニュース

第三一四號

◎現内閣を排撃せよ：

Ⅱ民政黨關東大會Ⅱ

(東京)十二年四月十六日

第二十回總選舉を二週日後に控へて民政黨では十六日午后零時半より日比谷公會堂に於て關東大會並に大演說會を開催、宣言を朗讀して大會を終了續いて大演說會に移り劈頭町田總裁にて現内閣排撃、立憲政治擁護の大演說をなし續いて村松久義、小川郷太郎、永井柳太郎氏の順序で舌端火を吐く大雄辯を奮ひ終りに櫻内座長の發聲にて兩陛下の萬歳を三唱し午後五時非常なる盛會裡に閉會した。

寫眞は

一、町田總裁の演說

一、場外に溢るゝ群衆



同盟寫眞

内地ニユース

第三號

◎ ガーランド氏一行

「東をどり」見物

(東京) 十二年四月十七日

來朝第二夜のオリムピック委員ガーランド氏一行は十六日夜新橋演舞場に「東をどり」を見物した、新橋をすぐつての美妓連の出演に目と耳を楽しませ、幕間舞臺に上つてゲイシャガール連に取りまかれ大満悦の態だった。

寫眞は

一、ガーランド氏一行(新橋演舞場)



同盟寫眞

内地ニュース

第四一號

◎六大學リーグ戦開幕

(東京)十二年四月十七日

春のスポーツの華、東京大學野球聯盟春季リーグ戦は待ちに待った花曇りの十七日午前十一時神宮球場に華麗極りない入場式をプロログとして開幕、定刻十一時一壘側入口から海軍軍樂隊の勇壯な行進曲に先づ昨秋の覇者早大を先頭に明大、法政、立教、慶應、帝大の順にダイヤモンドを一壘から大きく一巡してホームプレートを前に並列し國旗掲揚あり、覇者早大から攝政、首相、文相、米國、チエツコ各大使杯の返還あつて入場式を終り早帝、慶明戦に入つた。

寫眞は

一、入場式



同盟、無事ニシテ、第一ニセシ

高松合口兩殿下

其の民道場へ仕成り

(船橋より千世本特) 昭和十三年四月十八日

高松合口殿下には此殿下街同俸、

正の九時迄自働せりて、鈴木島太郎

大将を遣へさせられ千世本特の船橋本所

度石の日本土直年協会の民道場

民道場の御成り玉井場長以下此

土の奉迎祝に有栖川合口合口場人

に依て此の五加南野平の記を早瀬園を

の代を赤須気、治ひ侍接の千世本特高

を聯合会を経営の精孔並の役馬利

伊場の肉成り、互耕作を兼ねるを海

原に遊ばれり

は身中隊員を以て此の高松合口

同民道場下



同盟、この下から三二一とや五〇七

大の積の十戸をトキキーン

(在中) 十二二年四月十八日

訪日初の日曜日を迎へたヘレンケラー

女史、精進と云うに於ては帝國ホテル

中庭の、高松の下に立つて、その取を

たると、女史と高松の声をトキキーカ

トキに収められた

トムソン嬢のハリスへで、大々の信託と

交はれ、桜崗の足は、善く自らトキキ

に録音された、長 暮の映、山あさ木

て、今日日本国の、あのアメリカの

せんが、偉大な、二十世紀の、あの、あ

を再現する、あの、あ。

今、あはトキキーン、あへリン、あ

ケラー、女史



同盟寫眞

内地ニユース

第五號

◎下田町の黒船まつり

(下田)十二年四月十八日發

下田町では十八日竹下大將他内外名士百余名を
招いて第四回「黒船まつり」を盛大に舉行、余
興として假裝行列、手踊、花火等あり終日大賑
ひを呈した。

寫眞は

一、黒船まつり



同盟寫眞

内地ニユース

第四號

◎廿三年の輝く業績

明治神宮奉讃會解散式

(東京)十二年四月十九日

明治大帝の御偉徳を永久に偲び奉る千古不磨の
明治神宮外苑諸造營を芽出度く完了した明治神
宮奉讃會は十九日午後二時半閉院總裁宮殿下の
御台臨を仰ぎ外苑憲法記念館に於て會長徳川家
達公、副會長阪谷芳郎男（と）の他赤誠に燃へて
大正四年奉讃會創立以來事業に盡瘁した關係者
約三百名、林首相(代理)、松平宮相、米内海相
鹽野法相、結城藏相、河原田内相等が參集、徳
川會長から同會の業績報告があり、殿下より有
難き令旨を賜ひ、終つて林首相(代讀)、松平宮
相、河原田内相の祝詞があり同二時四十五分阪
谷副會長の閉會の辭で解散式を終了した。

寫眞は

一、閉院宮殿下の令旨



同盟寫眞

内地ニユース

第一號

◎ヒットラー總統誕生日

Ⅱナチス觀光船の祝賀Ⅱ

(横濱)十二年四月廿日

廿日は今を時めく獨逸のヒットラー總統第四十八回目の誕生日に當るので十九日横濱に入港したナチス觀光船リライアンス號では午前七時から船上で盛大な祝賀式を舉行、キース船長以下乗組員は勿論ドイツ人船客等約八十名がヒットラー總統の肖像寫眞を掲げてナチス旗を張りめぐらされた後部デッキに集合、乗組員で組織されてゐる制服のナチス青年突撃隊員五十名司會の下に嚴かに開會、アダム隊長の宣言の後一同右手を高く舉げて獨逸國歌と黨歌を高唱「ハイル・ヒットラー」を絶叫して同二十分食堂でシャンペンの祝杯を舉げた。

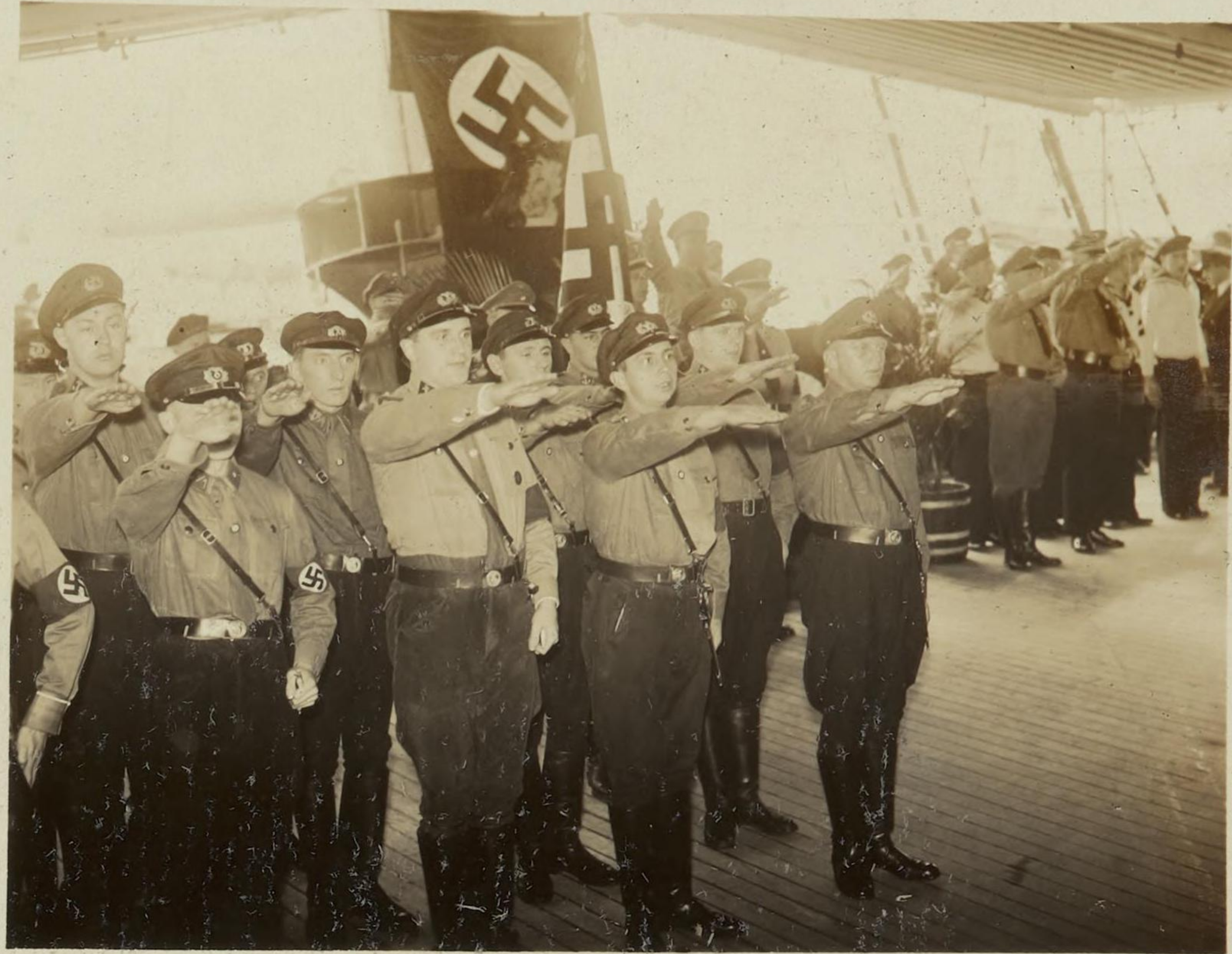
寫眞は

一、黨員の「ハイル・ヒットラー」

一、ヒットラー署名入りの近影



K. Stein
Breslau am 17. Aug. 1916



同盟寫眞

内地ニユース

第二一三號

◎若葉かほる明治神宮に
兩陛下御久方ぶりの御親拜
Ⅱ外苑繪畫館にも行幸啓Ⅱ

(東京) 十二年四月廿日

天皇皇后兩陛下には廿日お揃ひにて御久方ぶりは明治神宮に行幸啓御參拜あらせられた上美事に完成した外苑の聖徳記念繪畫館にお立ち寄り明治大帝の御偉徳を忍ばせられた、天皇陛下の明治神宮御親拜は昭和五年十一月明治神宮御鏡座十年祭の砌り以來七年ぶりの事にて、又皇后陛下には翌六年十月照宮様御同伴御直拜あらせられてより六年ぶりに拜するが、繪畫館への行幸啓は兩陛下とも今回が最初のこととて奉讃會多年の偉業の最後を飾るこの光榮に關係者一同いたく感激してゐる。

寫眞は

一、明治神宮行幸啓

一、聖徳記念繪畫館行幸啓





同盟寫眞

内地ニユース

第四號

◎ガールランド氏

外苑各競技場視察

(東京)十二年四月廿一日

滞在中の米國國際オリムピック委員W、Mガール
ランド氏は廿一日午前十時令息を同伴、大島組織
委員會副會長、平沼組織委員、高島總務委員等
關係者の案内で東京大會々場予定地としての外
苑に到り水泳場、競技場、相撲場、野球場を約
一時間に亘り高島、ダーキン兩氏の説明で視察
したがガールランド氏は新緑に包まれた綜合競技
場が非常に気に入つてしまつた。

寫眞は

一、競技場視察の一行



同盟寫眞 海外ニュース 十二年四月廿一日

◎戴冠式愈々近づく

(ロンドン) 發同盟

愈々近づいて來た戴冠式に備へ行幸啓御通路に
於て本格的予行演習の御馬車



◎早速通ぶりを發揮して

兒玉遞相電信電話局視察

(東京)十二年四月廿二日

兒玉遞相は先般伊勢神宮參拜の歸途、大阪の中
央電信局や電話局を視察したが大阪を見て膝許
の東京を見ないと江戸ツ子に叱られるからと廿
二日午前十時半から平澤電務、梶井工務兩局長
を伴ひ中央電信局の印刷電信機、中央電話局の
自動、手動の交換機、その他の施設を見て歩き
大いに感心して正午引上げた兒玉さん、教はつ
たばかりの電話のかけ方をやつて見せたり「モ
ダンな印刷電信機が十七臺もあるんだ」と早速
通ぶりを發揮大變な御機嫌だつた。

寫眞は

一、中央電話局視察の兒玉遞相

同盟寫真

内地ニュース

第四號



◎ 歌米の少年少女たちへ
美しい「若人のための日本」

(東京) 十二年四月廿二日

國際觀光局が昨秋以來苦心を重ねてつくつてゐた歌米の少年少女へのプレゼント「ジャパン・フォア・ゼ・ヤング」(若人の爲の日本)といふ美しい本が出来上りました、この本は日本の正しい認識は先づヤングゼネレーションからと見地から日本の各部門を美しい寫眞入りで平易に紹介したもので内容は、一、日本は如何なる國か二、日本はどうして偉大な近代的國家となつたか三、日本の子供は如何に養育されて社會に出るか四、何故日本は風景がよいか五、富士山と日本人六、日本の主要産業は何か七、日本人は何を信じてゐるか八、日本は如何に治められてゐるか九、日本の着物十、日本文化の種々相十一、汽船、汽車、飛行機十二、日本の習慣十三、日本のスポーツ十四、近代日本の姿等に分れてゐます、これを菊版百五十頁に收め本月中に五萬部を印刷、來月早々それぞれ歌米の各學校に發送する予定です。寫眞は

一、若人のための日本

同盟寫眞

内地ニユース

第三號

◎近づく大相撲夏場所

ハリキル大關双葉山

(東京)十二年四月廿三日

夏場所の新番付發表は五月一日、初日は七日、この場所から新制十三日の延長興行なので各力士ともこの對策を加味して猛練習で各部室とも張り切り横綱玉錦以下の精銳を擁する二所を關部室を越ゆる立浪部室、井筒部室等何れも稽古を開始した、立浪部室の御大双葉山は更に下廻り大きくなり稽古振りも却々にすざましい寫眞は

一、双葉山と渡島洋の猛稽古



同盟寫眞

内地ニュース

第一號

◎李清様初の御誕辰

(東京)十二年四月廿三日

李公殿下第一男子李清様には廿三日めでたく第一回の誕辰を迎へさせられたがこの日御母宮費珠殿下には李清様をお抱き遊ばされて小池御用掛、飯高事務官が御供申上げ十時過ぎ御殿内十時三十分李清公の賢所初御参拜を行はせられた、終つて午前十一時宮中大奥に於かせられて天皇、皇后兩陛下に初の御對面の上一旦常磐松の御殿に御歸還午后三時大宮御所に御伺候皇太后陛下にも初の御對面を遊ばされた。

寫眞は

一、参内の李清様(小池御用掛に抱かれて)



◎我國電氣通信技術の恩人

コルピッツ博士に勳意傳達

(東京) 十二年四月廿四日

畏き邊りからその功績によつて勳章を贈與の沙汰があつた米國電信電話會社ベル電話研究所、所長ニドウキン・エッチ・コルピッツ博士は廿四日午前十時遞信大臣室で兒玉大臣から右勳章を傳達された、同博士は電氣通信工學界の世界的權威で四十九年間電氣通信工學の研究發明に没頭、幾多の發明を發表して居り我國電氣通信技術の發達にも同博士の研究に負ふ所が多く我國の電氣通信事業の視察者は常に必ず同氏の世話になつてゐる、同博士今回の來朝は電氣學會の招聘により各地に於て講演を行ひ又各大學研究所を見學する爲である。

寫眞は

一、右より兒玉遞相、コルピッツ博士、同夫人

